

平成28年度厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
分担研究報告書

子宮頸がんワクチン接種後に生じた運動麻痺に対する反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS）
併用リハビリテーションの検討

研究分担者 池田修一 信州大学医学部附属病院難病診療センター
片井 聡 リハビリテーションセンター鹿教湯病院神経内科

研究要旨

子宮頸がんワクチン接種後に生じた運動麻痺に対するrTMS併用リハビリテーションを2例に試みた。1例では効果があったが、他の1例では本治療後下肢の震えが生じたので、研究を中止した。

A. 研究目的

子宮頸がん予防（HPV）ワクチン接種後の副反応として、四肢の特異な運動麻痺が、出現する。この麻痺は従来の神経解剖学的概念では説明が困難であり、また有効な治療法がない。本研究では新たな試みとして反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS）併用リハビリテーションの有用性を検討した。

B. 研究方法

両下肢麻痺を主症状とする18歳と右上下肢麻痺を主症状とする19歳の女性を対象に磁気コイルで、大脳一次運動野を刺激し、その後、リハビリテーションを行った。期間は1クール2週間の予定であった。

（倫理面への配慮）

所属施設の倫理委員会の承認を得て実施。

C. 研究結果

19歳女性では右上下肢麻痺の改善が得られた。しかし18歳女性では本治療の1クール終了後に両下肢の強い振るえが出現した。

D. 考察

2例にrTMS併用リハビリテーションを試みたが、1例で本治療後両下肢の強い振るえ

が出現した。副反応を否定できないため、本研究は中止した。

E. 結論

子宮頸がんワクチン接種後に生じた運動麻痺に対するrTMS併用リハビリテーションの試みは一定の成果が得られなかった。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. 池田修一. ヒトパピローマウイルスワクチン接種後の神経障害：神経内科医の立場から. 神経内科 85:528-535, 2016.
2. 池田修一. 子宮頸がんワクチン関連の神経徴候とその病態. 神経治療 33: 32-39, 2016.

2. 学会発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし